資料彼報

第 34 号

編　集　平成 26 年 3 月 31 日

発　行　高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話（0265）35-7083

印　刷　㈲　雨　宮　印　刷
電話（0265）22-6027

高森町歴史民俗資料館「時の駅」

富本銭（県宝）

目　次

○あいさつ …… 2
○平成 25 年度事業報告 …… 3
○平成 25 年度の記録 …… 4〜5
○委員会等の記録 …… 6
○「時の駅」講座のようす …… 7
○平成 25 年度企画・特別展
・五月人形と武具展・
東京木目込み人形展 …… 8
・「ミニ平和展」など
町民ギャラリーの展示 …… 8
・特別展「山吹藩主座光寺氏展」…… 9
・特別展「松岡氏展」「成田青畔遺作展」 10
・特別展「伊那街道と中馬」…… 10
・雛人形と美人画展 …… 11
・大正月飾り …… 11
○小正月飾り作り教室 …… 12
○学校教育との連携…… 12
○研究調査報告
特別展「伊那街道と中馬」 …… 13〜15
○平成 25 年度資料寄贈者御芳名 …… 16
○入館者数と利用のようす …… 16
○編集後記 …… 16

◉ごあいさつ

高森町長　熊　谷　元　尋

高森町の歴史民俗資料館は、私たちが町の歴史や文化を学ぶ大切な場所です。昭和 54 年の開館以来、資料の収集や保管、そして一般公開や学校との連携など充実した活動をされています。

私たちは、この活動のおかげで文化財に興味を抱いたり、町の歴史を正しく認識することができます。そして、ちょっと学びたいと思った時に、いつでも学ぶことができる場所が身近にあることはとても幸せなことです。

13 年後の 2027 年には、高森町のごく近い所をリニア中央新幹線が通ります。リニアは、高森町を大きく変化させる可能性を秘めています。しかし、時代や環境がどのように変わろうとも、高森町の歴史をきちんと後世へ伝えていくことが重要です。これからも、町民の皆さんだけではなく、町を訪れる皆さんにも町の歴史を知っていただく場所であり、生涯学習の拠点として、多くの皆さんに親しまれるような資料館であることを願っています。

資料館運営委員長　松　島　悦　男

今年度は霜害、風水害、記録的大雪害の異常気象に襲われ受難続きでしたが、一方医学やオリンピック等で若者への期待も大きくなりました。当館運営の重点企画、①五月人形・木目込人形展　②座光寺氏展　③ミニ平和展　④松岡氏展　⑤伊那街道と中馬展⑥雛人形展等をご要望等も考え実施したところ、貴重な資料収集と展示方法の工夫によって参観者も多く大好評でした。時の駅講座は、⑴「地名から見た旧村の生い立ち」寺沢義登氏が座光寺氏の出自と山吹の地名から村の歴史を探る発表。⑵「吉田の里の今昔」塚平増男氏は、村内の道の変遷を中近世から現代まで図や写真等で解説。⑶「下伊那助郷の変遷と和宮の東下」竹内昭一氏は、中山道への助郷苦役や和宮東下の大動員の様子を古文書を通して解説。各講師が具体的な調査資料を基に大変分り易く、また熱っぽく語り、時の経つのも忘れる程の講話会でした。

近頃、若者のネット依存、「スマホ依存症」が人格形成に及ぼす悪影響の深刻さを指摘されています。当館では「蚕の飼育」や「小正月飾り」等の実体験を通して、自分の眼で見・工夫しながら学べる機会を設けました。町内の自然や環境を大切にし、地域の伝統の継承と産業の発展を担う人材の育成こそ重大な課題だと思います。地区内の貴重な遺産の発掘と同時にふれあい・学び合いの資料館にしたいです。

高森町教育長　光　沢　郁　夫

まちづくりの基本は、郷土の歴史や文化を知ることに始まり、大切なのはその機会を創ることにあると言われます。

資料館は、まさに、歴史と文化の伝承施設であり、平成 25 年度も、今や資料館の看板事業である「時の駅講座」や「特別展」等を開催すると共に、高森町に誇りと愛着を感じられる学び舎として、小中学生による「ふるさと学習」も実践しています。

来年度も、より魅力ある講座や展示が計画されています。是非「生涯学習の場」として、また「ふるさと学習」の場として、多くの皆様にご利用を頂き、いにしえに想いを馳せて頂ければ幸いかと存じます。

この一年間、お力添えを頂きました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、資料館報第 34 号に寄せる言葉としたします。

平成 25 年度 事業報告

館長　近藤昭弘

高森町歴史民俗資料館が設立されてから 34 年が過ぎました。本年度も、町内外の多くの方々に見学していただいたり、施設をご利用いただきました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導に心から感謝申上げ、平成 25 年度の事業報告をさせていただきます。

［1］企画・特別展

①五月人形と武具展・東京木目込み人形展（千鶴萠会）（５月）〈767 名〉
②特別展「山吹藩主座光寺氏展」（７月）〈873 名〉
③特別展「ミニ平和展」（8 月９日～９月 12 日）〈610 名〉
④特別展「松岡氏展」「成田青畔遺作展」（９月３日～９月 29 日）〈533 名〉
⑤特別展「伊那街道と中馬」（11 月）〈523 名〉
⑥雛人形と美人画展（３月）〈758 名〉

※7 月と 11 月の特別展のみ、金曜日の開館時間を午後７時まで延長

◯三校児童・生徒作品展　　◯小正月飾り作り体験教室（1 月 11 日）〈23 名〉
◯寺田昌道　柿渋クラフト展（１月 12 日～２月２日）

［2］「時の駅」講座（14 年次）

①第１講座	７月 ６日(土)「地名からみた旧村の生い立ち」	寺沢 義登氏　53 名
②第２講座	８月31 日(土)「吉田の里の今昔」	塚平 増男氏　38 名
③第３講座	10 月19 日(土)「下伊那助郷の変遷と和宮の東下」	竹内 昭一氏　36 名

［3］古文書研究会

・竹内先生を講師に毎月第２木曜日に実施（うち１回は館外研修）
・２月は、山内尚巳先生に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から 48 名が参加。

［4］委員会の活動

①　運営委員会　　資料館の運営について協議。３回開催（その外に小正月飾り作り体験教室で臨時に１回開催）
②　調査委員会　　昨年に続き高森町の古い家並み・屋号を調査。　５回開催

［5］委員・職員研修視察

・隔年実施のため本年度は実施せず。

［6］学社連携事業

①　資料館と学校が連携して授業を実施
　　高森南小　２～６年（24 学級）、 高森北小３～６年（５学級）、 高森中１年（５学級）
②　高森南・北小の５年生が、資料館の足踏脱穀機、千歯扱、唐箕を使って脱穀作業を体験
③　農業体験ホームステイで来町した県外の中学生が見学のため来館（11 グループ）
・町内の小・中学校の子どもたちが社会科や総合学習等で資料館を積極的に活用してくれ、土器に触れたり、古い生活用具を動かしたりできる体験コーナーは好評であった。また、松岡城址や武陵地１号古墳、惣兵衛堤防等の史跡での現地学習の支援も行った。

［7］入館者数

平成 25 年度の入館者数は 8,226 名（昭和 54 年の開館からは 200,274 名）
・保育園、やすらぎ荘のミニデイサービス、牛牧老人クラブ、下市田史談会、議会総務民生委員会、中学校の同年会等、町内外の多くの方に展示を見学していただいた。また、高森町史学会、下市田一区自治会、柿の里短歌フォーラム、松岡城址愛護会、柿渋クラフト講座等の団体に施設をご利用いただいた。

［8］その他

・小学生を対象にした小正月飾り作り体験教室に関連して、資料館のロビーで秋蚕を飼育したところ、来館者の皆さんに好評であった。
・本年も、天理教高森支部や高森南小ボランティア委員会の皆さんが奉仕作業を実施してくださり、外回りの環境が整備され感謝しております。

✵平成 25 年度の記録

4．1　新年度発足（館長、主事、臨時、各１名）
7　昭和 29 年市田中学校卒業同年会(29 名)
9　恵那市水戸浪士研究グループ（５名）
10　松岡氏五百年法要会代表者会（27名）
10　第１回資料館運営委員会（８名）
11　第１回古文書研究会（18 名）
18　第１回資料館調査委員会（13 名）
19　高森町史学会幹事会（15 名）
25　旧館駐車場へ鯉のぼり飾り付け
25　高森町史学会総会及び手塚勝昭氏の講演「水戸浪士天狗党の伊那街道通行」(35 名)
29　天理教の皆さんによる奉仕作業（30 名）

天理教の皆さんが芝生の手入れをしてくれました。(4月)

5．1　特別展「五月人形と武具展、東京木目込人形展」５月 31 日まで
8　松岡氏五百年法要会実行委員会（17 名）
8　吉田保育園年長組（31 名）
9　第２回古文書研究会（18 名）
9　飯田市観光ガイドの会（14 名）
10　高森南小学校六年生遠足　館長出張授業（123 名）
21～30　大阪、藤沢、藤井寺の市立中学３年生のホームステイ生徒（18 名）
24　松本市道の旅の皆さん（21 名）
25　下市田一区自治会の「親子ふれあい教室」(90 名)
26　浜松市未来社の皆さん（24 名）
31　第１回資料館活用委員会（８名）
6．6～18　八尾、柏、門真市立中学３年生のホームステイ生徒（19 名）
7　第２回資料館調査委員会（14 名）
11～12　高森南小学校６年生　社会科学習（121 名）
13　第３回古文書研究会（18 名）
14　高森町史学会幹事会（14 名）
14　ＳＢＣラジオが本学神社について来館取材
22　エコネット高森の皆さんによる緑のカーテン講習会（19 名）
6．25　高森南小学校ボランティア委員会の草取り、花植え奉仕作業（14 名）
26　上郷コーラスグループ（20 名）
27　郷友上高地会（11 名）
28　松岡氏五百年法要会実行委員会（16 名）
30　柿の里短歌フォーラム（90 名）

緑のカーテン講習会（６月）

7．1　特別展「山吹藩主座光寺氏展」7 月 31 日まで
1　牛牧老人クラブ（37 名）
6　第１回時の駅講座 寺沢義登氏「地名からみた旧村の生い立ち」(53 名)
7　御前崎市ふれあい里クラブ（22 名）
11　古文書研究会館外研修：伊那部宿、高遠町歴史博物館、高遠城址、進徳館、桂泉院、熱田神社（12 名）
14　スポ少南野球説明会（54 名）
16　南小ボランティア委員会の皆さんの奉仕作業（12 名）
19　原城愛護会（７名）
22　高森北小学校６年生 社会科学習（23 名）
25　松岡氏五百年法要会実行委員会（19 名）
27　高森町史学会地域史跡巡り（37 名）
30　シニア十六夜会（10 名）
31　第２回資料館活用委員会（８名）
8．8　第５回古文書研究会（22 名）
9　「ミニ平和展」町民ギャラリーにて開催 9 月 12 日まで
23　松岡氏五百年法要会実行委員会（20 名）
31　第２回時の駅講座 塚平増男氏「吉田の里の今昔」(38 名)
9．2　高森町教育委員会に派遣された長野県埋蔵文化財センターの綿田氏が着任し考古作業、収蔵庫整理を開始 平成26年3月20日まで
3　特別展「成田青畔遺作展」「松岡氏展」 9 月 29 日まで
4　小水力発電研究会（17 名）
10　岡谷蚕糸博物館より蚕種を入手し資料館で養蚕を始める
12　第６回古文書研究会（18 名）
13　高森町史学会幹事会（17 名）

９．18　第２回資料館運営委員会（６名）
　20　町田市立町田南中学生ホームステイ学生（５名）
　24　昭和34年高森南中学校卒業古稀記念同年会（28 名）
　28　原城愛護会（６名）
10．４　第３回資料館調査委員会（13 名）
　７　松岡城址の秋を観る会全体会（13 名）
　９　高森町史学会幹事会（14 名）
　10　第７回古文書研究会（18 名）
　16～24　ミニデイサービス：牛牧・大島山・上市田・吉田・下市田・山吹・上平地区（121 名）
　18　高森中学校１年生 社会科学習「市田柿について」（68 名）
　19　第３回時の駅講座 竹内昭一氏「下伊那助郷の変遷と和宮の東下」（36 名）
　19　山梨文化学園（20 名）
　21・22　高森中学校１年生 社会科学習「市田柿について」（102 名）
　22　山吹保育園（35 名）
　25　古御家を考える会（18 名）
　29　高森南小学童クラブ（56 名）

ミニデイサービスの皆さんに話しかける町長（10 月）

11．１　特別展「伊那街道と中馬」11月30日まで
　14　第８回古文書研究会（17 名）
　20　下市田史談会（15 名）
　26　高森南小ボランティア委員会の落葉掃き（15 名）
　27　議会総務民生委員（10 名）
　28　高森北小学校４年生 社会科学習「惣兵衛堤防について」（28 名）
　28　高森町史学会幹事会（15 名）
12．６　松岡氏五百年法要会全体会（17 名）
　10　高森南小ボランティア委員会の落葉掃き（15 名）
　12　第９回古文書研究会（17 名）
　13　みつば保育園年長組（35 名）
　26　高森南小３年２組 社会科学習（32 名）
　27　大正月の飾付け

一研究の優れた作品を飾ってくれました（12月）

１．９　第 10 回古文書研究会（17 名）
　11　小正月飾り体験教室（23 名）
　12　寺田昌道先生の柿渋クラフト作品の展示 ２月２日まで
　13　柿渋クラフトのワークショップと講演会（85 名）
　16～30　高森南小学校３年生 社会科学習(96 名)
　17　第４回資料館調査委員会（11 名）
　19　南小野球保護者会（13 名）
　21　シニア大学（11 名）
　24　高森南小学校２年１組 社会科学習(31 名)
　26　スポーツ少年団南小野球３・４年生（28 名）
　26　柿渋研究会（32 名）
　29　高森町史学会幹事会（15 名）
　31　下市田保育園年中組（45 名）
　31　小正月飾り片付け 南小学校児童参加(62 名)
２．４　第３回資料館活用委員会（８名）
　7・13　高森南小学校２年生 町内探検(97 名)
　11　渋柿研究会（37 名）
　13　古文書特別研究会　講師：山内尚巳先生「江戸時代後期の伊那街道と上市田宿」…関川家文書の史料を読む…（48 名）
　23　南小野球保護者会（15 名）
　25～28　高森南小学校4年4組 社会科学習(117 名)
　26・28　下市田保育園（70 名）
　27　高森北小学校３年生 社会科学習（31 名）
３．１　特別展「雛人形と美人画展」３月 30 日まで
　３　松岡城址愛護会（12 名）
　４　高森町史学会研修旅行(1泊)「水戸・大洗海岸と結城・佐野への歴史探訪の旅」(27 名)
　６　下市田保育園（43 名）
　７　第４回資料館運営委員会（５名）
　７　第５回資料館調査委員会（12 名）
　９　南野球保護者会（38 名）
　13　吉田地区睦会の町内巡り（25 名）
　13　第 12 回古文書研究会（16 名）
　18　高森中学校３年１組昼食会（74 名）
　20　牛牧史学会総会で館長講演「市田宿と中馬」
　24　子育て支援グループ（13 名）
　25　高森町役場新入職員研修（６名）
　26　食生活改善推進協議会（15 名）
　26　高森町史学会幹事会（17 名）

資料館　委員会等の記録

1．運営委員会

〈　委　員　〉

松島　悦男　　本島　恭則
鈴木　大和　　林　マリ子
下沢　　貢

〔委員会の主な活動〕

○委員会（年４回）

４月　本年度の運営についての協議
・企画、特別展「時の駅」講座の確認
・学社連携事業の促進

４月の運営委員会

９月　本年度の事業の見返しと来年度の運営について
・小正月飾り作り体験教室について

１月　小正月飾り作り教室への協力

３月　本年度の事業報告と来年度の方向

2．調査委員会

〈　委　員　〉

（山　吹）　塩澤　　孝、橋都　洋治
（吉　田）　中塚　　悟、中塚　美弘
（下市田）　片桐　　猛、唐木　孝治
　　中村　忠敬
（上市田）　下平　清志
（牛　牧）　竹内　宜雄
（大島山）　本島　義文
（出　原）　畑中　定喜

〔調査委員会の主な活動〕

○委員会　（年５回）

・「家並み、屋号調査」を地区ごとに進めた。
市田地区は昭和９年作成の地図、
山吹地区は昭和31年作成の地図による聞き取り調査などを基にしてデータのまとめを行い、地図に書き込み、校正をして完成させた。

3．古文書研究会

〈　組　織　〉

・会　長　小林　正人（牛　牧）
・副会長　寺沢　ゆき（山　吹）
・会　計　手塚　勝昭（吉　田）
・監　事　北澤善二郎（下市田）
・講　師　竹内　昭一（下市田）
・顧　問　林　　藤人（牛　牧）
　　福島　壽子（下市田）
　　原　　次郎（下市田）
・幹　事　近藤　昭弘、岡田　茂信
・会　員　25 名（うち９名は町外の会員）

古文書研究会の定例会

〔活　動〕

○定例会　（毎月第２木曜日）

郷土に関する古文書の読解を通しての研鑽の他に、館外研修（７月伊那市高遠方面）を実施し、会員相互の親睦を図っている。

○特別研究会

山内尚巳先生を特別講師としてお招きしての古文書学習会。（町内外の一般の方も参加）

「時の駅」講座のようす

本年度で 14 回目を迎えた「時の駅」講座の第１講座は、元山吹公民館長宮下功氏が書いた『山吹村史』や『山吹藩史料』に基づく座光寺氏の歴史とそれに関わって山吹地区に残る地名や伝承などについてのお話がありました。第２講座では、江戸時代の吉田村の石高と支配関係、柿改め帳のお話、今は知る人も少なくなった道の今昔、そして天竜川の川除けや水争い、入会山に関わる山論など吉田の歴史を紹介していただきました。そして第３講座は、江戸時代、下伊那の農民にとって難儀な課役であった助郷の移り変わりや幕末、皇女和宮の江戸への嫁入り行列に関わる大規模な助郷の様子のお話でした。３つの講座ともに講師の方の思いが伝わり、受講者の皆さんは熱心に聴き入っておられました。

第１講座「地名からみた旧村の生い立ち」

7月6日（土）　53 名受講
講師　伊那谷地名研究会会員
寺沢　義登　氏

山吹の歴史について話される寺沢氏

講師へのお礼の言葉（本島運営副委員長）

第２講座「吉田の里の今昔」

8月 31 日（土）　38 名受講
講師　元高森町資料館調査委員
塚平　増男　氏

第2講座の様子

吉田の歴史を紹介される塚平氏

第３講座「下伊那助郷の変遷と和宮の東下」

10 月 19 日（土）　36 名受講
講師　資料館古文書研究会講師
竹内　昭一　氏

下伊那の助郷について話される竹内氏

第3講座の様子

平成25年度 企画・特別展

企画展 五月人形と武具展・東京木目込み人形展

5月1日～5月31日　入館者　767名

本年度も端午の節句に合わせて各種の五月人形や甲冑・刀剣等の他に、師範会千鶴萠会の皆さんが丹精込めて作られた「源氏物語　第三景」～六条院の栄華～をテーマにした東京木目込み人形を展示してくださり、参観に来られた皆さんに好評でした。

五月人形や幟

座敷幟

源氏物語をテーマにした東京木目込み人形

源氏物語の華やかな人形たち

「ミニ平和展」など 町民ギャラリーの展示

町民ギャラリーでは、山吹追分地区の皆さんにより寄贈された「松根油を採った傷が残る松」を中心にした戦争を考える展示や岡田玲子さんのクロスステッチ作品、寺田昌道氏による柿渋クラフト展など例年と違った展示が行われました。また、町内小学校の児童の皆さんの絵や版画、中学校美術部の皆さんの作品、夏休みに資料館を訪れて調査してまとめて郡展で優秀だと認められた一研究なども展示させていただきました。どれも資料館を訪れた皆さんが足を止めて見てくれました。

岡田玲子さんの作品

「ミニ平和展」での
「松根油を採った傷が残る松」

柿渋クラフト展

特別展「山吹藩主 座光寺氏展」

7月1日～7月31 日
入館者　873 名

山吹藩は座光寺為真（ためざね）に始まり、江戸幕府の信頼を得て、17 世紀初めから 19 世紀末の明治 4 年まで山吹の地を治めました。藩主の中には武道とともに文芸に通じた藩主もおりました。そこで、資料館だけでなく、座光寺家などの個人のお宅、元善光寺や隣政寺などで所蔵している座光寺氏に関わる書画や調度品などを展示させてもらい、町内外の多くの皆さんが興味深く見学してくれました。

「山吹藩主 座光寺氏展」主な展示資料

	資　料　名		資　料　名
1	屋敷平面図の写し	13	十三代為永公 書
2	元善光寺関係古文書	14	十三代為永公 硯
3	初代為真公座像、為真公御方様座像	15	袍（神職用）、歳着袴（軽杉）
4	四代為治公 刀「長治」	16	参勤交代時の進上書
5	七代為忠公座像	17	印鐙、香炉、盃、茶碗、飯茶碗
6	七代為忠公 画「相生の松」	18	湯呑、薬壺、金平糖入れ、法螺貝
7	為忠公 画「梅」「鹿」「馬」「虎」	19	煙草入、細工物、手鏡、物入れ、手甲
8	為忠公 書「懐紙書」	20	東山道総督府よりの書面、錦御切れ
9	澄月から為忠公宛の書簡	21	片桐家（栄、源栄、源一）の短冊
10	為忠公 画「大黒」「菊」	22	小皿、鎧兜、采配、床几、陣笠
11	十一代為巳公 書	23	陣羽織、火事装束
12	十二代為邕公 書　屏風など	24	槍、火縄銃

座光寺氏の座像など

座光寺氏の書や画

座光寺家からお借りした物

山吹藩ゆかりの武具

特別展を見学される牛牧
老人クラブの皆さん

特別展

「松岡氏展」と「成田青畔遺作展」

9月3日～9月29日
入館者 533 名

「松岡氏展」では、９月 23 日に行われた「松岡氏五百年慰霊之碑建立及び法要会」に因んで、松岡氏の出自や松岡氏が約５００年間治めていたことがわかる物証、松岡氏と井伊氏との関わり、松岡城址の発掘調査出土品など常設展よりも詳しい展示がなされました。

一方、「成田青畔遺作展」では樺太に生まれた彫刻家の成田青畔は、晩年南信州の自然を愛し、ことに高森町を「理想の地」として居住し、創作に勤しみました。没後、山吹公園のやまぶき邸を借りて遺作を展示していましたが、この特別展で木彫作品 15 点の他、テラコッタ、絵、篆刻作品等 30 点ほどを展示しました。

常設展より詳しい「松岡氏展」

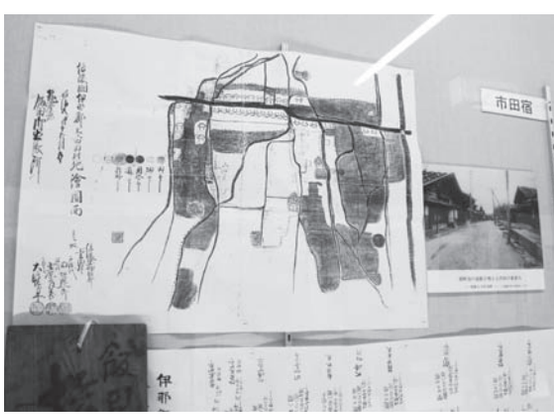
成田青畔氏の遺作

特別展「伊那街道と中馬」

11 月1日～11 月30日　入館者 523 名

江戸時代、宿場の問屋を通さずに物資を運ぶ中馬というものが、伊那街道では盛んに行われるようになりました。最初は農民が農閑期の駄賃稼ぎとして行っていましたが、しだいに専門の馬方による中馬が発達しました。特別展では「伊那街道の地図と写真」「原町宿とも呼ばれた市田宿の様子」「中馬や馬宿の写真」「中馬稼ぎの馬方と宿場の人々との争いを巡る古文書」「馬追いの出立ちの品々」などが展示されました。

中馬宿の写真や馬追いの出立ちの品々



市田宿の昔の写真と地図

特別展を見学される古文書研究会の皆さん

企画展「雛人形と美人画展」

3 月 1 日～3 月 30 日　入館者 758 名

今年も町内外の皆様から寄贈された御内裏様や各種の雛人形を展示して雛人形の移り変わりがわかるとともに、町の公民館の美人画教室の皆さんの作品 15 点を展示させていただき、華やかな展示となりました。

土雛、押絵雛、豆雛

明治・大正時代の内裏雛

雛人形を見に来てくれた下市田保育園の皆さん

艶やかな美人画

美人画教室の皆さんによる力作

大正月飾り

今年も下市田の唐沢哲男さんと上沼啓孝さんのご好意で、資料館の玄関前に伝統的で立派な門松を飾ることができました。

玄関前に飾られた門松

ロビーでお蚕様を飼いました

「小正月飾り作り教室」

1 月 11 日（土）参加者 23 名

運営委員の皆さんが準備してくださった小正月飾り（繭玉と餅花）を、町内の小学生の皆さんや保護者の方にも参加してもらい、賑やかに飾ることができました。

小正月飾りを懐かしく眺める人や放課後、資料館に寄って飾り終えた餅花と繭玉を喜んでもらっていった小学生などにも豊作を願った先人の思いが伝わったのではないでしょうか。

絵本を手にして話される松島運営委員長

豊作を願って飾りました

見事にでき上がって記念写真を撮りました

学校教育との連携

武陵地1号古墳での出前授業

子どもたちが郷土の歴史や文化について学び、生まれ育った土地に誇りと愛着を持ってほしいと願っています。そのために、資料館活用委員会で小中学校の先生方に資料館の積極的な活用をお願いしてきました。本年度は、昔の暮しを学ぶために古い道具を見るだけでなく、道具に触れて体験することも行いました。松岡城址、武陵地古墳、惣兵衛堤防の痕跡が残る地などへ出向いての授業も行ったりしました。

また、中学１年生が市田柿収穫体験の事前学習として、資料館を訪れて市田柿の歴史を学んでくれました。

惣兵衛堤防の学習もしました

市田柿について調べる中学生

研究調査報告

特別展
「伊那街道と中馬」

館長　近藤　昭弘

はじめに

伊那地方は袋小路的な地形のため、人々の往来や物資の輸送に大変な苦労を伴っていた。

戦国時代、伊那谷に侵攻した武田信玄は、軍事的な目的から道路を改良し要所要所に宿を設けた。天正年間毛利秀頼の時に、宿場規定を作り宿場の充実を図った。その宿場では、問屋が物資の輸送の一切を取り仕切っていた。

一方、宿場の問屋を通さずに物資を運ぶ中馬が盛んに行われるようになり、物資をめぐって宿場との争いが頻繁に起こった。

昭和 50 年(1975)に中央自動車道が飯田ＩＣまで開通し、それに通じるバイパスも完成した。道路がどんどん改良されたことにより、物資の輸送も飛躍的に良くなり、大量の物資を安全にしかも速く送り届けることができるようになった。

今回の特別展では、江戸時代から明治初期にかけて、信濃の物資輸送の重要な担い手であった中馬及び市田宿について、市田宿の問屋を務めた関川家の古文書や当時を物語る遺跡等で紹介することにした。

一 市田宿

江戸時代の信濃を通る主要道は、木曽から塩尻・下諏訪を経て軽井沢へと抜ける中山道と、下諏訪から中山道と分かれて甲府へ通じる甲州街道であった。

その塩尻宿から、伊那谷を南下して三河に向かう脇往還が伊那街道（三州街道）である。

毛利秀頼の頃、伊那街道沿いに宿場町が整備されたが、その一つが市田宿である。

1 伝馬役の勤務

嘉永３年(1850)当時、市田宿には 47 軒の家があったが、そのうち 19 屋敷が伝馬役を務め、19 匹で日々の継立てを務めていた。普通の日は馬２匹が問屋に順番で待機しており、求めに応じて次の宿（大島宿か飯田宿）まで継送りした。幕府や藩の役人が御用で通行する場合には、前もって先触(さきぶれ)を出して通行に必要な人足や馬を用意させた。先触を見て、要請された人馬が自分の宿では足りない場合には、飯田藩や市田陣屋宛に助郷の村に助人馬を頼む願書を提出しなければならなかった。

上市田宿の家並み（昭和 25 年）

伝馬役を務める者は、御用の通行がない時には商人や一般の荷物も運んだ。中馬と競合する商人や一般の荷物を、いかに多く取り扱うことができるかどうかが、生活を成り立たせる上で重要であった。

2 伝馬の種類と賃銭

(1)無賃伝馬

将軍の御用か幕府直属の御用の役人や荷物を運搬する「朱印伝馬」や、幕府の老中や京都所司代、大阪町奉行などが出した書付を持った役人や荷物を運搬する「証文伝馬」の場合は無賃であった。

(2)賃伝馬

①御定賃銭(おさだめちんせん)

幕府の御用で京都所司代、大阪御城代などに出張する役人、大名の参勤交代などの場合は、幕府が定めた御定賃銭を支払った。御定賃銭は、慶応４(1868)年に至るまで値上げが許されなかったので、一般の人馬労賃に比べて甚だしく低賃銭となった。

②相対賃銭

参勤交代で大名が用いる人馬でも、御定賃銭の定数を超過した分や、大名の家臣などが私用で旅行するような場合は、相対賃銭を支払わなければならなかった。相対賃銭は、大体その当時の人馬労賃の通常相場に近かった。

中山道や甲州街道は、公用荷物が優先されることもあって、脇往還での物資の輸送が盛んに行われた。しかし、各宿場に設置されている伝馬は、隣接する宿場間の往復に限定され、宿場ごとに荷物を付替える「宿継(しゅくつ)ぎ」で、駄賃・口銭(こうせん)（手数料）を徴収されたので不便であった。

二 中馬

街道周辺の農民が、農閑期に１～２頭ほどの牛馬を曳いて荷物を運ぶ作間稼ぎ※を始めた。やがてそれが専業化し、宿場問屋を経ずに荷主と直接契約で荷物を運ぶようになった。その輸送形態が中馬である。

中馬馬方の出立ち

※江戸時代、農閑期に農業以外の仕事に従事し収入を得ること

三 中馬の中継基地「飯田」

伊那街道の中間に位置する飯田は、堀氏二万石の城下町として、また中馬の中継基地として繁栄していた。城下の人口は領内の約１割前後といわれているが、宝永２年(1705)の飯田城下には領内人口の 24%余の人々が住んでいたという。

信濃から東海地方へ出る荷物も、東海地方から信濃各地に送られる荷物も、共に飯田で馬を替えて送られた。そのため、飯田は一日に「出馬千疋、入馬千疋」といわれるほどの賑わいを見せていた。

四 街道筋の馬宿

中馬稼ぎが盛んになるにつれて、駄賃稼ぎのために物資の運搬量も多くなり、一人で３～４頭の馬で30里40里といった遠方まで付出すようになった。そうなると、馬方や馬を泊めるための馬宿が街道筋に開設されるようになった。

阿智村浪合の恩田地区にある馬宿（「藤屋」現当主：近藤清氏）は、一時は取壊しも考えられたそうだが、当主の願いから本棟造りの太い梁や柱をそのまま使って改築された。かつては、表口は馬が荷物を付けたまま通れるように板張りの頑丈な大戸になっており、表口を入ると「通し土間」といって裏口まで通り抜けのできる土間があった。その土間を挟んで左側に厩、右側に居間・囲炉裏・勝手・馬方が泊る部屋があった。馬方は囲炉裏でくつろいでいる時でも、自分の馬の状態に気を配っていたということで、いかに馬を大切に扱ったかがよく分かる。囲炉裏の上には格子状の火棚があり、濡れたものを乾かす時にも使われた。その囲炉裏の真上に吊り部屋状に造られた窓のない部屋があり、時には馬方たちの賭場に使われたという。

恩田の旧馬宿（近藤家）

五 中馬と宿場問屋との対立

宿場は諸役免除の特権を与えられたが、公用の通行で支払われる賃銭は御定賃銭で一般に比べて安く、商人荷物の継送りによる収入がどうしても必要であった。ところが、中馬による付け通しにより、宿場での物資の継送りが減少し、宿場問屋と中馬との対立が深刻になった。

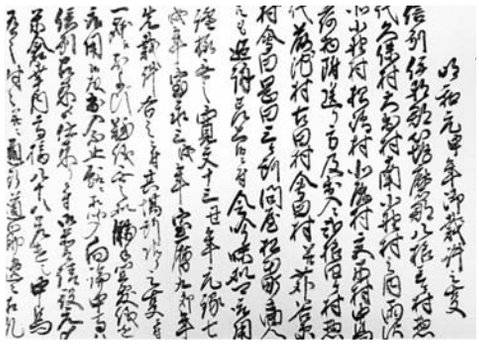
寛文 13 年(1673)に、飯田・大島・塩尻の問屋が宮木・大出・小野などの村々の中馬荷物を差し押さえる事件が起こった。これに対して農民側は幕府奉行所にその中止を訴え、この要求が聞き入れられ、農民がこれまで通り作間稼ぎとして荷物を自分の馬に付けて通行することが認められた。

元禄６年(1693)に問屋側は、街道を通る諸荷物の中から茶・紙・煙草など主要商品７種類を特に指定し、これを宿継にしたいと要求し、再び両者が対立した。しかし、この要求は奉行所によって否定され、中馬のこれまでの慣行が認められた。

六 明和の御裁許

宝暦９年(1759)に,上伊那郡で中馬荷物の荷替えをめぐって松島・平出両宿と中馬村との間で争論が起こった。翌年には宿場が中馬荷物の一部を差し押さえたことから再び対立が激化し、それが大訴訟事件へと発展した。

明和元年(1764)、幕府は２名の検分役を遣わして、信州各地の中馬関係の実情を調査させた。それを基に、村名や馬数等が詳細に記された「明和元申年中馬出入御裁許書」が幕府より下され、中馬は幕府公認の輸送機関となった。



明和の御裁許書（関川家文書）

七 中馬と三州馬の対立

中馬による東海方面への荷物は、根羽で分かれて一方は新城・吉田（豊橋）方面、他方は足助を経て岡崎と名古屋方面に送られていた。また、東海方面からの荷物をここから積んで引き返していた。

ところがここ根羽では、早くから三河山間地の農民たちが馬に薪炭などを積んでは往来していたが、帰りには塩・茶・繰綿・魚などを積んでは飯田まで付け通す者もいた。これが三州中馬の始まりで、やがて三州中馬の扱う荷物が飯田の荷問屋の 20～30％を占めるようになると、伊那地方の中馬が扱う帰り荷が減少し、運賃の低下をも招くという深刻な問題となった。

文化年間、伊那地方の中馬側は、三州馬に対して飯田問屋への積荷及び馬宿の宿泊禁止を求めた。これに対して三州馬側はそれの阻止を求めて幕府に訴えるなど、両者の対立が激化した。飯田の町役人が調停に入ったがまとまらず、明和の裁許による慣行もあって、伊那地方の中馬側の意見が承認された。これにより、伊那地方の中馬は一人で４頭の馬を曳くが、三州馬は２頭に制限され、特に荷物が多い時は３頭が認められたが、扱い荷の内容も「土地之産物」だけに制限された。

八 中馬の衰退

明治３年(1870)に政府は、街道の宿駅にあった本陣・脇本陣を廃し、問屋を伝馬所と改めた。明治４年(1871)５月、従来の宿駅制度を全廃し、東海各駅に陸運会社を新設した。翌５年２月に筑摩県に陸運元会社ができ、全国の陸運会社の統括をした。明治５年(1872)11 月には別に中牛馬会社が設立され、信州管内の牛馬を持っている者は会社の頭取から鑑札を受け、所定の運賃をもらって荷物を運送することになった。

明治になると荷物の内容が舶来物・ランプ・ガラス類・石油等と江戸時代と変化したが、これらの荷物は従来通り中馬によって運搬された。

しかし、道路改修によって道幅が３間(5.4m)となり、荷車や運送馬車が通るようになると中馬は次第に廃れていった。さらに貨物自動車や電車が通るようになり、中馬は完全に姿を消した。

まとめ

海のない信濃に住む人々の生活を支えたともいえる中馬。

ひっそりと佇む馬頭観音

かつて、中馬が頻繁に行き交った伊那街道筋や、墓地の片隅に残る馬頭観音。中馬稼ぎの農民たちが、馬の無事息災や、不慮の事故等で死んだ馬の冥福、馬の安産などを祈って造立したものだという。

路傍で馬頭観音を見かけた折りには、ちょっと歩みを止めて中馬が盛んだった頃に思いを馳せてみてください。

ご案内と募集

ご　案　内

♣開館時間　午前９時～午後４時 30 分
♣休 館 日　月曜日・祝日の翌日・年末年始
♣学習室・研修室・町民ギャラリー

町民の皆さまに開放しております。
学習室・研修室は、諸会合・学習等に、町民ギャラリーは、作品等の展示にご利用ください。

募　　集

古文書研究会を毎月第２木曜日午後１時より学習室にて開いております。どうぞご参加ください。

平成 25 年度　資料寄贈者御芳名

❖民俗資料・その他

（敬称略）

品　　名	数量	氏　　名	住 所
合子（蓋なし）	1	本島　恭則	吉田
盃（焼き物）	1	本島　恭則	吉田
六文銭	6	本島　恭則	吉田
網笠	1	中平　福次	山吹
棹秤と分銅（５kg用）	各1	中塚　哲雄	吉田
鉛ガラス製の牛乳瓶	1	本島　恭則	吉田
武運長久の日の丸(寄せ書き)	3	松沢　正昭	下市田
支那事変従軍記章之證	1	松沢　正昭	下市田
警視総監からの賞状	1	松沢　正昭	下市田
軍隊手帳	1	松沢　正昭	下市田
大正時代のスキーセット（スキー板、スキー靴、竹製ストック）	各1	小原　　昴	飯田市上郷黒田
鉄の扇風機	1	小原　　昴	飯田市上郷黒田

❖書籍・刊行物(主なもの)

（敬称略）

品　　名	数量	氏　　名	住 所
女にこそあれ次郎法師	1	宮下　謙一	吉田
下市田史談会だより第16･25･26･27号	4	下市田史談会	下市田
萩の郷　伝えたい方言	1	下市田史談会	下市田
幻想の伊那谷	1	片桐　　猛	下市田
大東亜戦史　全 10 巻	10	本島　恭則	吉田
伊那民俗 創刊号～ 50号綴	1	柳田國男記念民俗学研究所	飯田市
戦後開拓史ー長野県下伊那郡増野原ー	1	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科	横浜市
お金の博物誌	1	飯田市美術博物館	飯田市
飯田・上飯田の民俗Ⅰ	1	飯田市美術博物館	飯田市
湖の雄　井伊氏	1	石原　正美	浜松市引佐町
天狗の走り路	1	塩沢　一郎	駒ケ根市
元大島防空監視哨	1	松川町資料館	松川町
古文書解読史料集･解読文	2	竹内　昭一	下市田
下伊那のなかの満州 1･3･4･5･7 巻	5	松上　清志	下市田

❀入館者数と利用のようす❀

〈入館者数〉（単年度及び開館以降の累計）

○平成 25 年度の単年度入館者数

８,２２６名（町内　　７,３２１名　　町外　　９０５名）

○昭和 54 年 11 月（開館）～平成 26 年３月 31 日までの累計

２００,２７４名（町内　　１５７,６１８名　　町外　　４２,６５６名）

松沢家から寄贈された戦争遺品

南小ボランティア委員会の皆さんが掃除に来てくれました

柿丸くんも来てくれました

編集後記

より親しんでもらえる資料館報をめざして、前号から表紙をカラーページにしました。11 ページに写真がありますが、今年は岡谷蚕糸博物館から蚕種をいただいてきてロビーを使って養蚕を行いました。懐かしがって見てくれるお年寄り、初めての蚕に興味津々の子どもたちなどの姿があり、展示だけでなく、体験もできる資料館をめざすことの大切さを痛感させられました。

この館報を見ていただければ、多くの皆さんが資料館に足を運んでいただいたこと、資料館の活動を熱心に応援してくださっていることがわかっていただけるのではないでしょうか。

今後も皆様に愛され、頼りにされる資料館をめざして努力したいと思っています。

（松上　記）